

## 【MRI検査の説明】

MRI(Magnetic Resonance Imaging:磁気共鳴画像)検査とは、磁力と電磁波の力によって、人体のあらゆる部分の断面像を撮ることができる検査です。検査にX線は使用しないので放射線被曝の心配がありません。CT検査とは異なった情報が得られます。筒型の装置の中に入ってもらい、検査を進めて行きます。画像を得る時に大きな音がします。

検査時間は検査内容によって異なりますが、おおよそ45分です。

※MRI検査を安全に実施するために、以下のご説明をお読みください。

### 1. 検査を受けることができない方

- ① 心臓ペースメーカーを埋め込まれている方(MRI対応のものでも不可)
- ② 金属製の心臓人工弁を使用されている方
- ③ 人工内耳・人工中耳を使用されている方
- ④ 神経刺激装置(深部脳刺激装置)を使用されている方
- ⑤ 冠状動脈等に磁性体のステント挿入後2ヶ月未満の方

### 2. 検査を受けられない可能性がある方(主治医に申し出てください。)

- ① 妊娠中もしくは妊娠の可能性のある方  
胎児に対するMRI検査の安全性は確立されておりません。原則、妊娠中の方は検査を受けることができません。(特に妊娠してから最初の約3ヶ月の検査は慎重になる必要があります。)
- ② 脳動脈瘤手術による金属クリップやコイル等がある方  
金属の材質をご確認下さい。材質が分からない場合は検査を受けることができません。
- ③ 手術等で体内に金属のある方  
材質が確認できない場合は検査を受けることができません。  
金属取り扱い業務に従事された方や外傷された方等で、体内に鉄片等が残っている可能性がある場合も検査を受けることができません。
- ④ 閉所恐怖症の方
- ⑤ てんかん発作の既往がある方
- ⑥ 入れ墨、アイライン、マスカラ、化粧品、整髪料、制汗剤等をしている方  
入れ墨は鉄粉を使用しているため、火傷や変色する可能性があります。主治医に申し出てください。アイライン、マスカラ等は、火傷を発症する事例があるため、検査前に落とすようにしていただく場合があります。なるべく化粧はせず、ご来院ください。
- ⑦ コンタクトレンズを使用されている方  
患者様に安全な検査を提供するため、原則、取り外していただきます。(コンタクトレンズの中には酸化鉄などの金属を含むものもあります。)検査当日はコンタクトレンズを装着せずに来院されるか、入室前に取り外してください。

### 3. その他の注意

検査室内に補聴器、装飾品、腕時計、磁気カード、電子機器類を持ち込むと故障、データが消失します。

入れ歯、使い捨てカイロ、エレキバン、ヒートテックなど発熱素材の肌着、ベルト、湿布、ニトロダーム、ニコチネル等は、火傷や画像のみだれを引き起こす可能性がありますので取り外していただきます。ご不明な点がございましたら、主治医、看護師または診療放射線技師にお尋ねください。

## 【造影MRI検査の説明】

あなたの病気をより正しく診断するために造影剤を用いた検査が必要です。造影剤は全世界で安全に使用されていますが、体調や体質により副作用が生じることがあります。多くは軽症ですが、まれに重症の副作用が起こることがあります。検査中、異常を自覚されましたら検査担当者にお知らせください。

### 1. 造影剤の種類

#### (1) MRI造影剤(Gb-DTPA、Gb-EOB-DTPA)

この造影剤を使用することで画像にコントラストをつけ情報量を増やすことができます。静脈注射で行います。注射後はおよそ6時間程度で80%以上が腎臓から尿として排泄されます。

##### ① 禁忌事項

ガドリニウム系造影剤に対し、過敏症のある方、気管支喘息、重篤な肝障害や腎障害のある方は、原則、本検査を受けられません。

##### ② 副作用について

軽症：100人に1人以下(かゆみ、蕁麻疹、腹部の不快感、嘔吐、息切れなど)

重症：10000人に1人以下(不整脈、ショック、けいれん、腎不全、意識消失など)

死亡：100万人に1人程度

その他：高度の腎障害、透析の方は稀に全身の皮膚の硬化・肥厚をきたす重篤な副作用が見られます

\*腎性全身性線維症(投与後数日～数ヶ月後、時に数年後)

#### (2) MRI造影剤(リゾビスト(SPIO製剤))

静脈内に注射することで、主に肝臓に集まり、肝臓の病気を診断しやすくする造影剤です。

この造影剤には鉄が含まれており、黒い色をしています。注射した後は体の中で代謝され最終的に糞便中に排泄されます。

##### ① 禁忌事項

鉄注射剤に対して、過敏症の既往のある方、ヘモクロマトーシスなど鉄過剰症の方、出血されている方については本検査を受けられません。

##### ② 副作用について

軽症：250人に1人(鼻出血、熱感、倦怠感、発疹・発赤、嘔気、頭痛、腰痛、背部痛、手足のしびれ、蕁麻疹、冷汗など)

重症：頻度不明(呼吸障害、血圧低下、意識障害)現在までこのような副作用の報告なし

その他：血管外に本造影剤が漏れた場合、漏出部位に色素沈着を生じることがある

### 2. その他

妊娠中の方は、原則造影剤を用いた検査は当院では行いません。お申し出ください。

授乳中の方で、ガドリニウム製剤検査後の授乳の継続については医師にご相談下さい。

授乳中の方のSPIO製剤については当院では行いません。

### 3. 同意書をいただいた後でも同意を撤回できます。いつでもお申し出ください。

また、分からないことがあれば遠慮なくご質問ください。